

## 第2回 大井川水資源検討委員会 議事概要

### 1. 日時・場所

平成27年4月2日（木）15:00～16:30

JR 東海品川ビル会議室

### 2. 出席者

<委員長>（敬称略） 今田徹

<委員>（敬称略・順不同）足立紀尚、木谷日出男、小池俊雄、戸田祐嗣、西垣誠、  
真下英人

<オブザーバー> 国土交通省中部地方整備局河川部、静岡県交通基盤部河川砂防局、  
静岡市環境局

<事務局> 東海旅客鉄道株式会社 中央新幹線推進本部

### 3. 内容

【挨拶】 ○事務局代表 中央新幹線推進本部長

○委員長

【報告】 ○第1回委員会の概要

○第1回委員会における主なご意見

【審議】 ○環境保全措置（計画段階）の深度化

○まとめ

【その他】 ○今後のスケジュール

### 4. 委員長挨拶

前回は、環境保全措置の課題・検討事項等を審議しその方向性を示した。今回は深度化した環境保全措置についてさらに検討し、今後の方向をはっきりと示すとともに、その課題についても検討していきたいと考えている。

### 5. 議事概要

○第1回委員会における主なご意見

- ・水収支解析について、特に低水期に着目しても数年に亘り解析的に再現できている。
- ・鉛直ボーリングについては今後詳細に検討を進めてほしい。
- ・水力発電所の導水路トンネル工事について、異常出水の状況等追加的な情報があれば教えてほしい。

## ○環境保全措置（計画段階）の深度化

- ・浚渫による貯水量増加が困難であると判断した根拠を教えてください。排砂により水資源の確保に加え、川を健全な状態にするメリットがある。
  - （JR）排砂については、大井川本流にダムが直列に建設されており、上流で排砂しても下流のダムでも同様に排砂が必要となり、駿河湾沿岸まで排砂することは困難であること、また確認の結果、大井川では現時点では計画がないこと、さらに継続的に浚渫が必要となることから困難であると評価した。
- ・土被りが大きくならないように導水路トンネルのルートを検討しているが、土被りの考え方を教えてください。
  - （JR）トンネルの施工を考慮して土被りは500m以下となるように検討した。詳細なルートは今後実施する地質調査の結果等により決めていきたい。
- ・導水路トンネルルートについて土被りを小さくするため川に近付いているが、地質が悪い箇所が川となっていることもあるのでルート選定の際に考慮することが望ましい。
- ・導水路トンネルの検討にあたり導水に必要な断面や勾配を適切に設計してほしい。
- ・工事中のトンネル湧水も早期に導水路トンネルから自然流下できるように、導水路トンネルに絞った調査を集中的に進めることが望ましい。
- ・中下流域での水資源利用への影響の回避という観点では導水路トンネルは良い案だが、椹島より上流の減水の可能性がある区間への対応の考え方を教えてください。また、工事中に使用する非常口からのポンプアップについては、機能を残して、非常口から少しでも流下すれば減水の可能性がある区間がカバーできるのではないかと。
  - （JR）ご意見については検討したい。なお、工事中は、沢の流量を測定して、工事前の調査で重要な種が確認された沢について減水の傾向が認められる場合には、必要に応じてその沢の動植物のモニタリングを行う。その結果、重要な種への影響が生じるおそれがある場合には、移植等の環境保全措置を講じていく。
- 現段階では、中下流域の水資源利用への影響を減らすために導水路トンネルにより対応し、導水路トンネルの出口より上流については長期間に亘るモニタリングの体制を整備するのが対応策と理解している。モニタリングの結果により万一流量が減るようなことがあれば何らかの対応策を考えて行くというのが、現段階での対応だと考える。
- ・トンネル掘削の際に流量を観測し、環境保全措置にフィードバックする。その時のために手段はいくつも考えておかなければならないが、現段階では導水路トンネルを進めることとしたいと考えている。

## 6. 委員長総括

- ・現段階における環境保全措置として、導水路トンネルが最も適切な案である。
- ・導水路トンネル計画について早期に深度化し、計画を具体化することが望ましい。